

雲仙岳火山活動状況 (1998年 2月～5月)*

Volcanic Activity of Unzen Volcano (February-May 1998)

九州大学理学部附属島原地震火山観測所

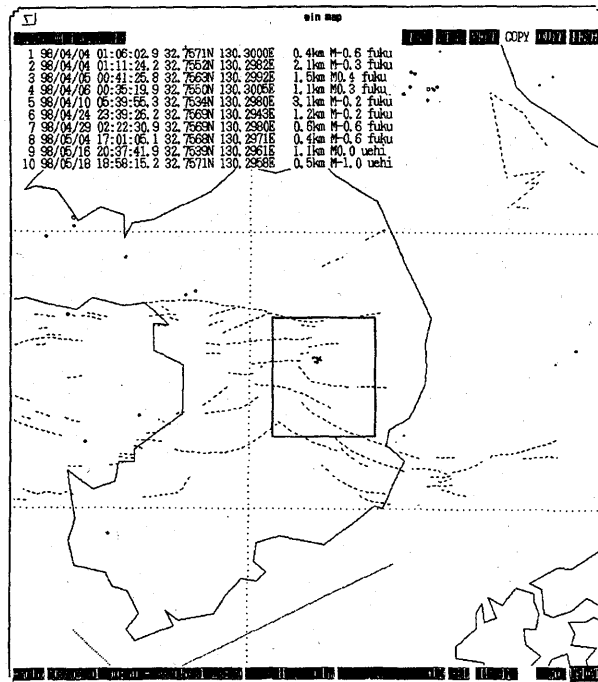
Kyushu Univ.

この期間、雲仙火山の活動は引き続き低調な状態を保っている。第1図に、1998年2月～5月の震央分布を示す。図中、枠内の地震は、普賢岳山頂直下で発生したもので、そのリストは左上に示されている。山頂直下では、今なお、時折ごく小規模の地震が発生しているが、1995年2月以降は月数回のきわめて少ない状態で推移している(第2図)。また本報告期間、傾斜変動を伴う火山性微動は観測されていない。

第3図に、1998年1月29日～1998年5月19日の九州西部の震央分布を示す。橘湾から天草灘にかけて散発的な地震活動が見られたほか、有明海北部や熊本市周辺、八代市周辺などで、小規模な地震活動のクラスターがいくつか認められる。

第4図に普賢岳周辺4カ所の傾斜観測点における傾斜の日平均値の変化を示す。山嶺観測点と池ノ原観測点では降雨の影響が大きいが、いずれの観測点でも火山活動に起因した顕著な変化はないと考えられる。

第5図に、GPS観測による溶岩ドーム頂部の変形を、また第6図に、溶岩ドーム頂部での噴気温度変化を示す。溶岩ドームは、依然として潰れながら傾斜方面へ流動する変形が継続している。変形量が最も大きいのは頭部の測定点(DEI)であるが、変形率は徐々に低下してきている。噴気温度も同様にゆっくりと低下傾向にある。

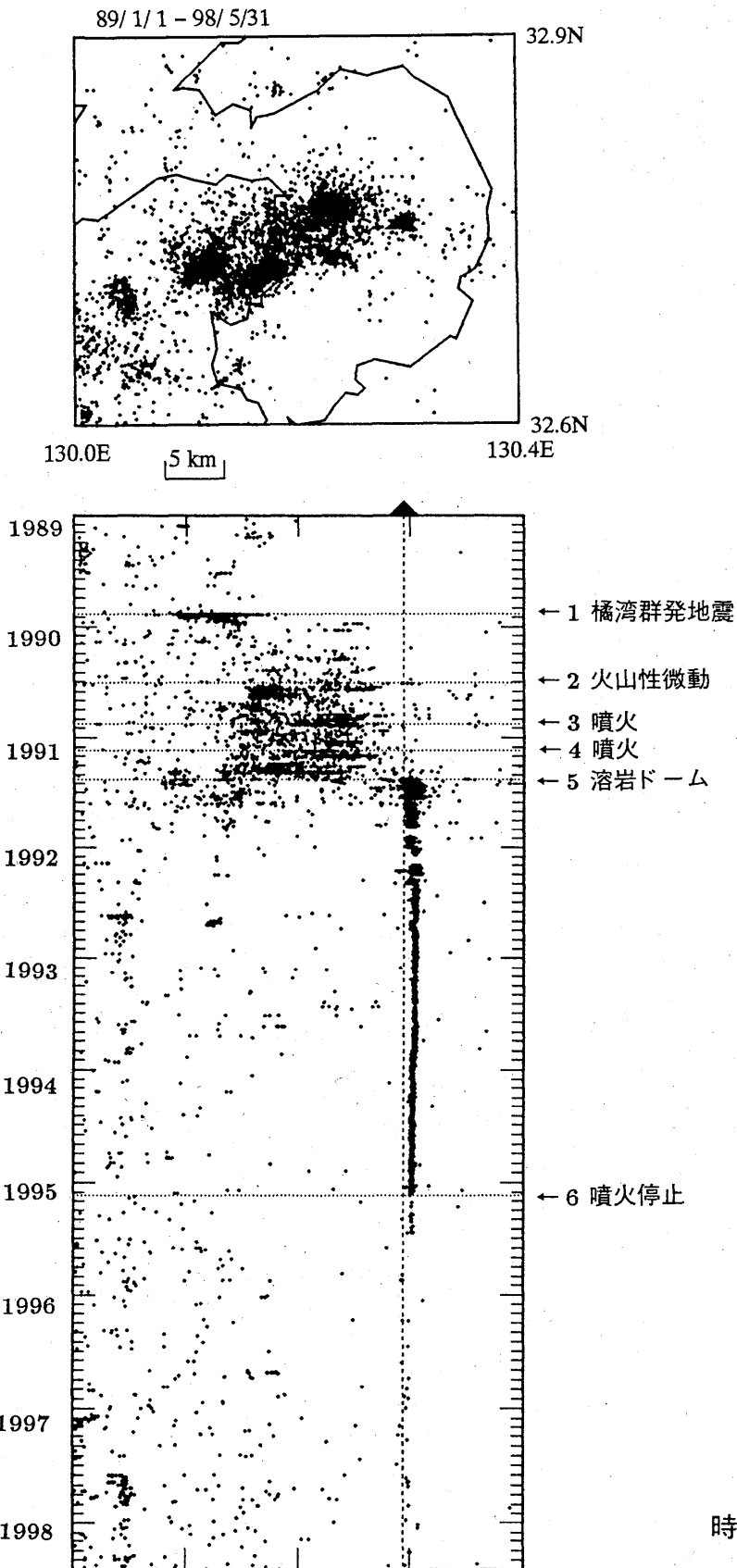


普賢岳山頂付近の地震活動
(1998年2月1日～1998年5月31日)

第1図 雲仙火山地域の震央分布 (1998年2月～1998年5月)

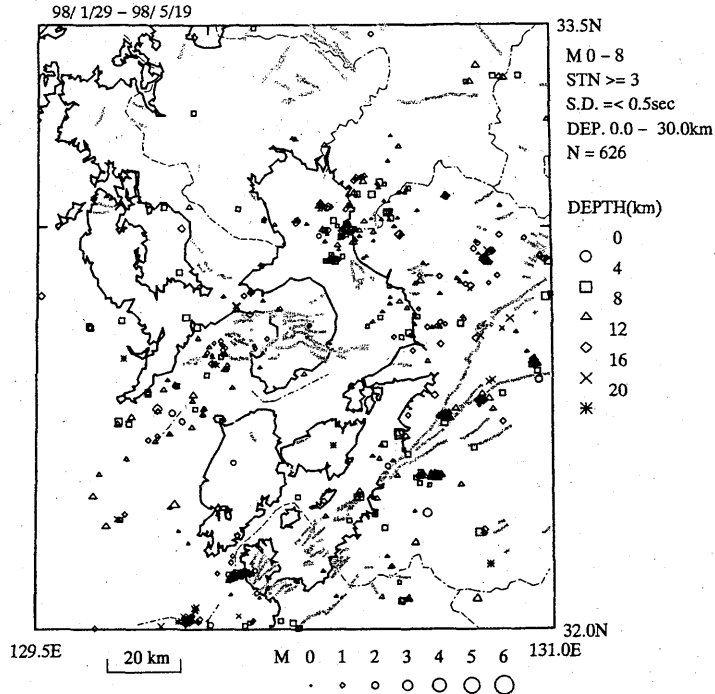
Fig. 1 Epicentral distribution in the Unzen volcanic area (Feb.1998-May.1998).

*Received 3 Aug., 1998



第 2 図 時空間分布 (1989年-1998年 5月)

Fig. 2 Space-time diagram (1989-May, 1998).



九州西部の地震活動 (1998年1月29日~1998年5月19日)

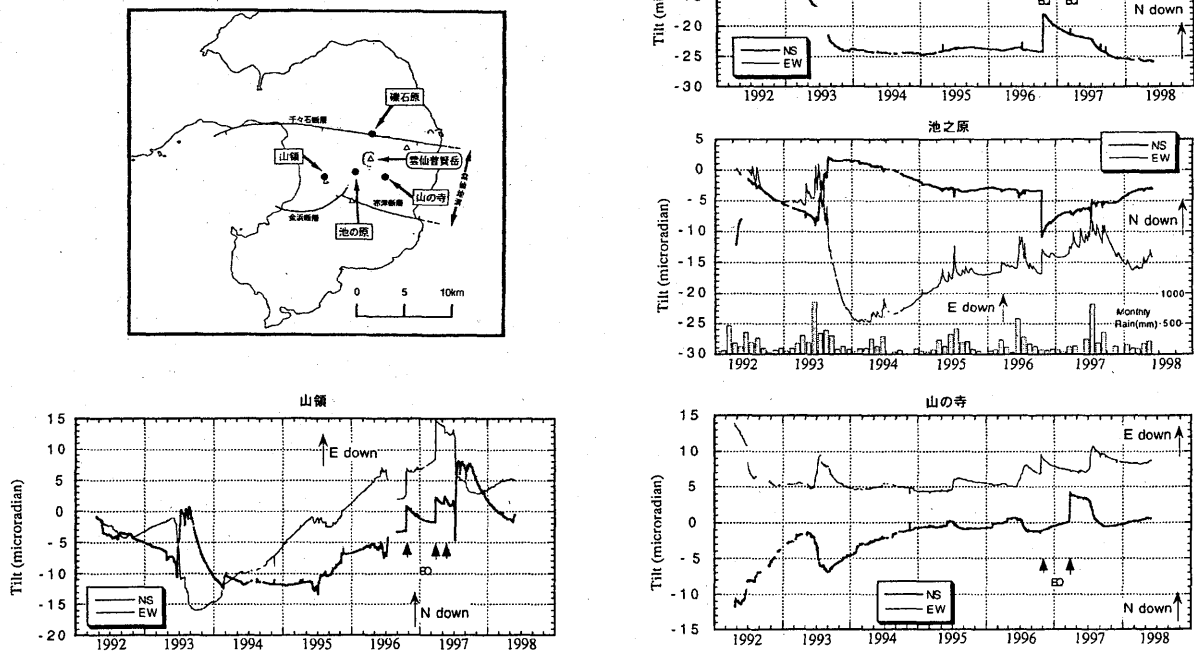
活断層データは活断層研究会による

第3図 九州西部の震央分布 (1998年1月29日~1998年5月19日)

Fig. 3 Epicentral distribution in western Kyushu (Jan.29,1998-May.19,1998).

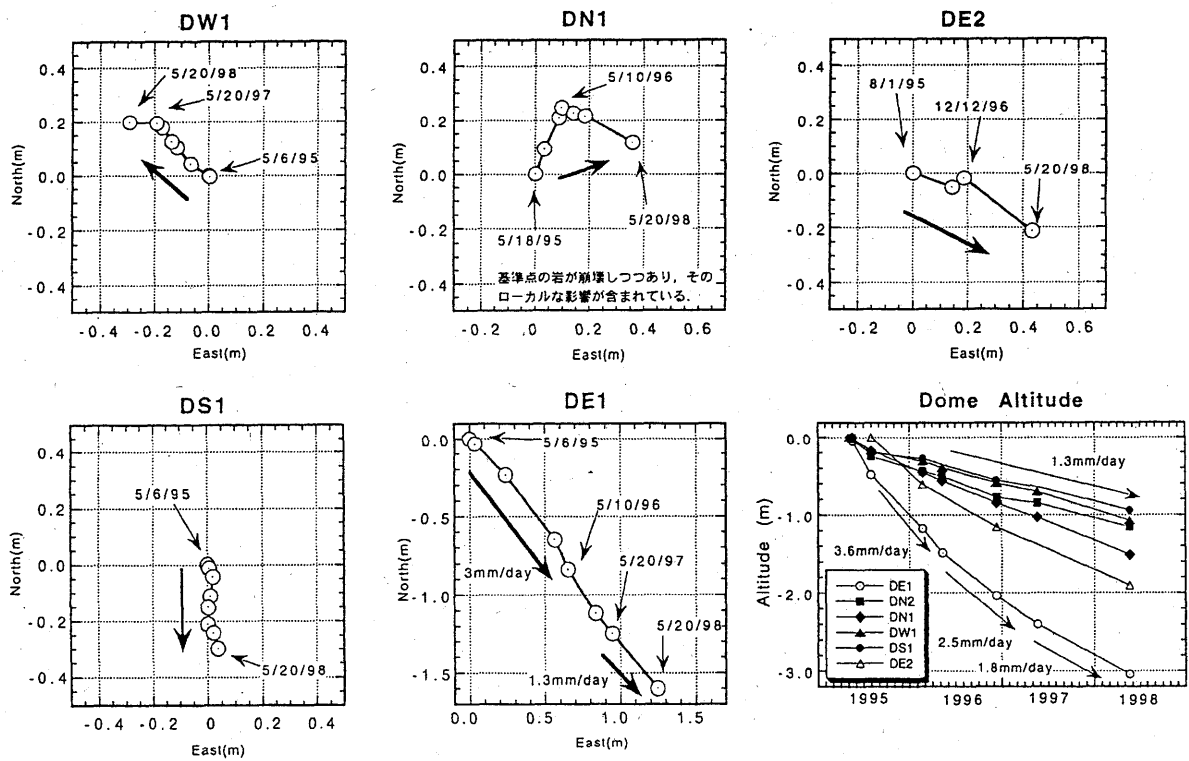
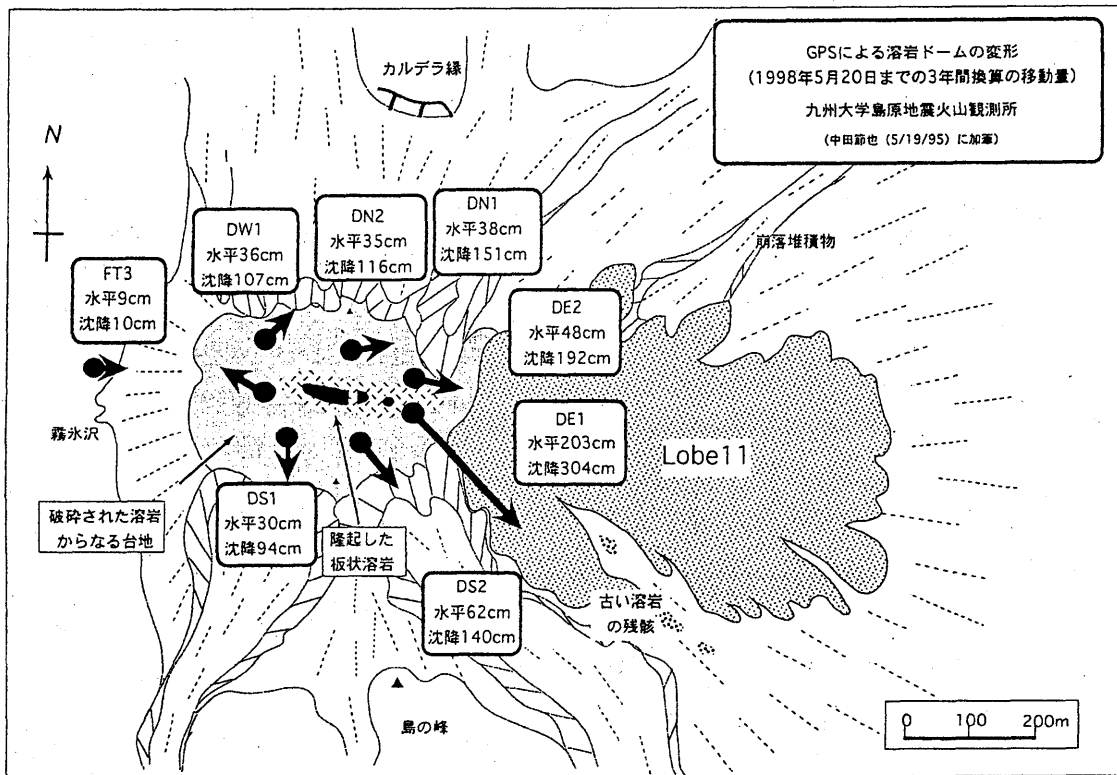
雲仙岳周辺における傾斜変動

九州大学島原地震火山観測所



第4図 普賢岳周辺の傾斜計配置図と傾斜変化 (日平均)

Fig. 4 Distribution of tiltmeters around Fugendake and the daily means of the crustal tilt data.

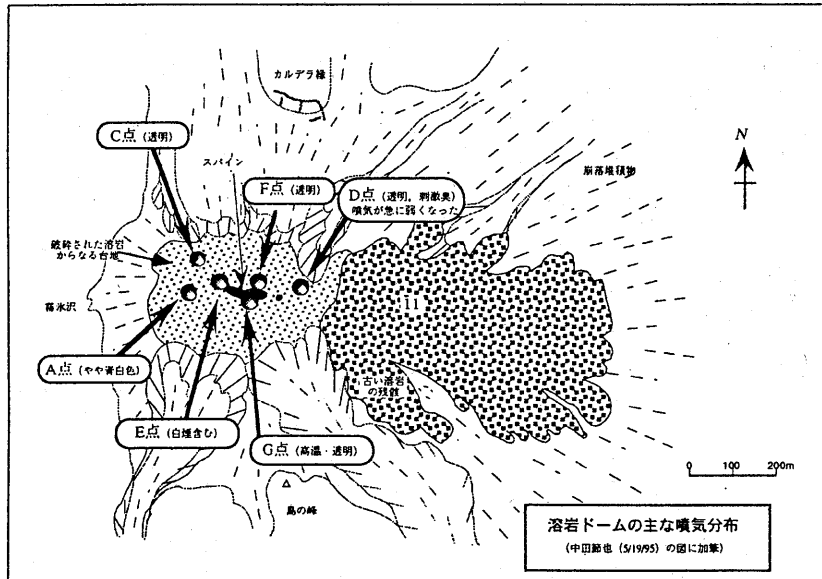


第5図 GPS観測による溶岩ドームの変形

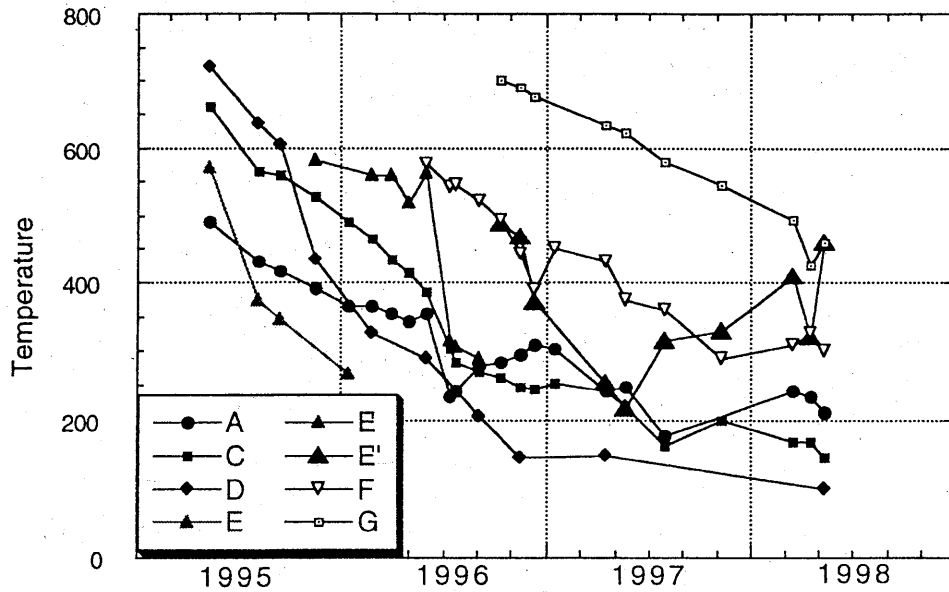
Fig. 5 Surfimation of the lava dome by GPS measurement.

平成新山ドームの噴気ガス温度変化

九州大学島原地震火山観測所



Temperature of Fumarolic Gas



噴気ガスの温度はE地点を除いて順調に低下している。1998年5月21日測定での最高温度は460度であった。E点は昨年5月以降上昇しているが、特に色や臭いに変化は見られない。噴気口周囲の溶岩崩落に伴う流路変化によるものか？

第6図 溶岩ドーム頂部での噴気温度変化

Fig. 6 Temperature variations of several fumaroles at the top of the dome.